



たつの市立 室津海駅館

■室津海駅館の概要

たつの市立室津海駅館は、近世から近代にかけて廻船問屋として活躍した豪商「嶋屋」の遺構です。建物は、嶋屋（三木）半四郎が江戸後期に建てたもので、1873年（明治6）に一部増築。

切妻平入り本瓦葺き二階建てという室津の町家の特徴をよく残しており、座敷回りの意匠がすぐれています。室津の大規模な町家を代表する数少ない貴重な建物です。

内部には、海の宿駅として栄えた室津の歴史を展示しています。テーマを「廻船」「参勤交代」「江戸参府」「朝鮮通信使」の四つに大別し、室津が海を通して外部世界とつながり、栄えていた歴史をたどります。

なお、二階の座敷は研修会などに利用できますし、展示ケースの使用もできます。一階には喫茶コーナーもあります。



室津海駅館のマーク

本館のマークは、嶋屋・三木家の家紋である左一丁子巴（ひだりひとつちょうじともえ）を表しています。

廻船

室津は古くから海上交通の要地で、すでに中世には「室の船頭」による商品輸送がさかんでした。

江戸時代になると西回り航路の発達により、室津の廻船問屋の活動は北海道にまで及びました。

参勤交代

1635年（寛永12）に参勤交代が制度化されて、西国大名は瀬戸内海を船で江戸に向かいました。

参勤コースにあたる室津は、多くの大名の上陸あるいは乗船地点でした。最多時には6軒の本陣を構え、海の宿駅として大いに栄えました。

江戸参府

オランダは、江戸時代、長崎の出島にて通商を許されていました。オランダ商館長は、通商免許のお礼として、毎年、江戸の将軍に拝礼し、これを江戸参府といいました。旅行は厳しい監視のもとに行われましたが、オランダ人にとっては日本をじかに観察するよい機会でもありました。

朝鮮通信使

朝鮮通信使は、朝鮮国王の親書を日本の将軍に持参した使節団です。使節団一行は500人前後で、海上では大船団を組み、陸上では大行列をつかって江戸への旅をしました。

室津には必ず寄港しており、当時の応接の様子を展示しています。

たつの市立室津海駅館

〒671-1332 たつの市御津町室津457
TEL 079-324-0595

- 入館料／高校生以上200円／小・中学生100円
室津民俗館共通券 高校生以上300円／小・中学生150円（団体割引 2割引 20人以上）
- 交通／山陽電鉄「山陽網干駅」下車 神姫バス大浦行「室津」下車 徒歩5分
- 開館時間／9時30分～17時（入館は16時30分まで）
- 休館日／月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日（土・日・祝日除く）、毎月末日（館内整理日）、年末年始

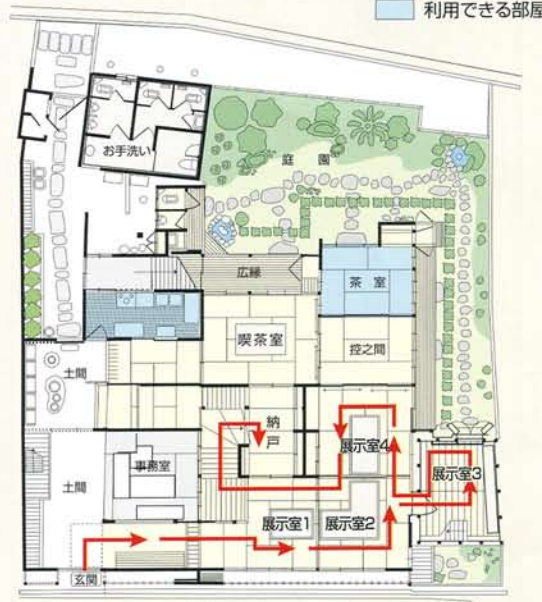
館内あんない図



二階平面図

→ 順路

■ 利用できる部屋



一階平面図